

オペラ 窓 (ウインドウズ)

台本 中村敬一
作曲 新倉 健

オペラ

窓

(ウインドウズ)

二つの空間を繋ぐ窓
二つの空間を隔てる窓
二つの時間を一つに映し出す窓
自分と他人を隔て結ぶ窓

- p. 2 プロローグ
コーラス
- p. 2 一つ目の窓
女 : Sop、Paso : TenまたはSop、Com : BrまたはMz、象 : Bs、フラミンゴ : Sop、猿 : Sop、孔雀 : Mz、
キツツキ : Ten、コーラス (パソコン、ジャングルの動物たち)
- p. 6 間奏曲 I
コーラス
- p. 6 二つ目の窓
女 : Sop、母 : Mz
- p. 10 間奏曲 II
コーラス
- p. 10 三つ目の窓
男 : Br、鏡の女 : Sop
- p. 12 エピローグ
コーラス

初演 : 2011年12月3日初演 鳥取オペラ協会 とりぎん文化会館小ホール

オペラ 窓 (ウインドウズ)

プロローグ 〈窓の歌〉

合唱 窓を開けよう
窓の向こうに風
風は窓の向こうからやってきて
わたしの頬を叩き
わたしの吐息を窓の外に運んでくれる

だから私は今日も窓を開ける
わたしの知らないわたしの美しさを輝かせ
例えそこに映る景色がわたしを醜く映しても
おねがい 窓を閉めないで

一つ目の窓

幕が開くと自分の部屋で孤独にパソコンと向き合う女。服を脱ぎながら、下着姿になる。彼女はパソコンのキーボードとマウスをせわしなく動かしている。口はパンをくわえ、脱ぎ捨てた服を投げながら

女 いつだってそうなの
みんな、あいつのせいよ
いつだってそうなの
あいつは勝手
だって、そうじゃない

♪♪♪ (スイッチの音)
必要な時だけ携帯で呼び出して

♪♪♪♪ (ハードディスクの起動音)
結局、あいつの暇潰し

いつだってそうなの
あいつは勝手

合唱 パンパカパーン (ウインドウの起動)
～ようこそウインドウズの世界へ

合唱 ～ようこそ、ようこそ
～ウィン、ウィン、ウインドウズの世界に

Paso/Com ようこそおいでくださいました、私たち、パイナップル・コンピューターの世界に
Paso 人間が禁断のアップルを食べてから、はや、数千万年
Com 私たちパイナップルコンピューターは、最後の禁断の果物パイナップルを
人間が口にする以前に…
Paso 最新の半導体とマイクロチップを用いて
Paso/Com 皆様をパラダイスにお連れする事を目的としています

オペラ 窓 (ウインドウズ)

合唱 Pa Pa Pa
Pa Pa Pa Pa Pa Pa Pa
Pasocom !

(欲望に満ちて)
女 モニターの中が私の世界
この世界だけは私の思いのまま
裏切りもないし、遠慮もない
キーボードとマウスの思いのまま
いつでも私の指先の呼びかけに
すぐに応えてくれる
優しい優しい私の憩い

時にはパソコンに話し掛け、パソコンの答えに喜び、悲しみ、満足する女

合唱 アクセス アクセス
繋ごう世界へインターネット
アクセス アクセス
一本の回線があなたを世界と繋ぐ
一本の回線から世界があなたの部屋にやってくる

女 さあ、繋ぐわ、インターネットの世界に
さあ、連れていって私の知らない世界に

♪♪♪ (キーボードの音)
合唱 ネットオークション
(セールスマンの明るさで)
Paso/Com ネットオークションへようこそ
あなたの生活と心の隙間に、心の闇に
ぴったりの商品を
パソコンの画面から手に入れることができます

合唱 ネットオークション
(即興的に語りかける愛の唄のように)
Com 遠い過去の記憶を
Paso 押し入れに仕舞いましょう
Com 思い出したくない記憶
Paso 人に知られたくない記憶
Com そんな過去の記憶を
Paso/Com このケースに入れて片づけましょう
一度入れたら中に何が入っているか分からなくなるこのケースは
今売れに売られています
過去の記憶押し入れケース、三つがワンセットで
いまならなんと1万円

オペラ 窓 (ウインドウズ)

合唱 ネットオークション

Paso お出かけの時に
あなたの肩や背中に重くのしかかった日々の生活の苦しさを
他人の目から覆い隠す携帯コート9980円

Com 他人の都合や辛さを一瞬にして見えなくしてくれる
他人の痛みカットのサングラス12800円

Paso 使わない時は小さく畳んでバックの中に忍ばせ
不意に知人に会った時、パッと広げて被りましょう

Com 何か決断しようとした時、他人の都合や立場が気になって
決断できない時は在りませんか？

Paso 生活の煩わしさ 人間関係の悩みを一遍に払ってくれる
孤独を愛する そんな あなたにピッタリの

Com そんな時に このサングラスをすれば
目の前はバラ色 空は青空
貴方を悩ます他人の都合や痛みは一瞬にして
あなたの視野から消え去ります

Paso 他人の目から覆い隠す携帯コート
グレー、黒の二色を用意しました

Com 他人の痛みカットのサングラス
現代人の必携アイテム

Paso 今なら何と 9980円

Com ナント 12800円

Paso/Com 是非、ご購入下さい

合唱 カタログショッピング
インターネット カタログショッピング

女 さあ 繋ぐわ 次のページへ
さあ 連れて行って
私の知らない世界へ

合唱 アクセス アクセス
繋ごう世界へインターネット
アクセス アクセス
一本の回線があなたを世界と繋ぐ
一本の回線から世界があなたの部屋にやってくる

ジャングルの静けさ

ジャングルにつながるモニター。ジャングルの木々の間から動物たちが登場。漫画的な面、帽子をかぶり
登場した動物たちは、意味不明の言葉、鳴き声を上げる。村長の象 (Bs)、けたたましい鳥 (Sp)、猿、ecc.
動物たちは、アリアを歌う。「夜の女王のアリア」であったり、「ワルキューレの騎行」であったり、「女心の歌」、「あなたの歌声は」であったり。有名なアリアのパラフレーズを意味不明の言葉で歌う

オペラ 窓 (ウインドウズ)

- Paso/Com 動物たちの声を翻訳しますか？
合唱 翻訳しますか？
- 女 「YES」 当然、頼むわ、動物の声を变えて！ 私の分かる言葉に変えて！
- ♪♪♪ (キーボードの音)
♪♪♪ (マウスのクリック音)
♪♪♪ (ハードディスクの起動音)
- 合唱 翻訳、翻訳、どんな言葉も、あなたの分かる言葉に翻訳！
Translation !
- 象 *In diesen heil'gen Hallen,* (ザラストロのアリア)
Kennt man die Rache nicht...

Verdient nicht ein Mensch zu sein.
- キツツキ *e di penseir* (女心の歌)
- 孔雀 *Mais, o mon bien-aime,*
pour mieux secher mes pleurs,
que ta voix parle encore!
Mon Coeur s'ouvre a ta voix
comme s'ouvrent les fleurs
aux baisers de l'aurore!
- フラミンゴ *Ah*~ (夜の女王のNr. 14のアリア)
- 猿 *hojotoho* (ホヨトホ) (ワルキューレの騎行)
- Paso/Com ウィルスに感染したファイルがダウンロードされています。
お使いのパソコンの脆弱性が発見されました
このパソコンのウイルス定義は最新版ではありません
至急 ウィルスソフトの防御プログラムを更新して下さい
スパイウェアが活動を開始しました！
- コンピュータがハングアップして、画面が止まる。慌てて、
キーボードを連打する女。暗くなる舞台
- 女 しまった、フリーズしたわ。
合唱 ハングアップ、ハングアップ、ハングアップ
再起動
- ♪♪♪ (キーボードの連打の音)
♪♪♪ (せわしなくマウスのクリック音)
- 女 ……できない

オペラ 窓 (ウインドウズ)

合唱 獣と人間の闘いを見物するローマの群衆のように熱狂してはやす
ハングアップ、ハングアップ、ハングアップ
ハングアップ、ハングアップ、ハングアップ
女 だめだわ、なんで思い通りにならないの
合唱 ハーング、アーupp

再び再起動したコンピューター。いつのまにか、舞台はジャングルになっている。その木々の間から舞台奥に
檻が見えて、その中に一匹の人間。「猿の惑星」ように人間が檻の中に。
女は意味不明のコンピューター言語を話している。動物たちはそれを見て、
人間の言葉を話している。まるで動物園で「ヒト」という動物を見ているかのように。

象 我々の国は自然の営みと宇宙の調和の中にある
我々の友情はこの森の調和であり
常しえにこの森を守っていくのが我々の使命である

かつてこの森を支配し
この自然を意のままに操ろうとした愚かな動物がいた
それはヒトという動物だ
彼らは自らの孤独を癒すため
森を壊し、自然を破壊し、やがて絶滅した

ここに居るヒトはメスで今となっては珍しい標本である
これを我々の戒めにしよう
永遠なる自然の調和のために

間奏曲 I <窓の歌>

合唱 窓を閉めないで
窓の向こうに忘れていた世界
私の記憶から消え去った世界が舞い戻ってきて
私の心をゆさぶり
私が目を伏せた私を映してくれる

だから私は今日も窓を開ける
さあ 窓を開けましょう

二つ目の窓

一人の女の住む都会のマンションの一室。部屋の奥には大きな窓。そこからはネオンに飾られた都会の夜景。
クリスマスイヴ。窓の外には雪が降ってくる、シルエットになって見える女の姿、女は動かない。

オペラ 窓 (ウインドウズ)

母(声のみ) 降り積もれ静かに
降り積もれ深く
雪の音 雪の積もる音が聞こえる
静けさの耳の奥に
雪の降り積もる音が静かに響く

電話の音、受話器を取る女

女 Ah- 終わったのよ
あなたは私があなたを必要とした時に
側には居てくれなかった

遠くでジングルベルが聞こえる

女 もう一度、やり直すですって？
私をまだ愛しているですって？
Ah-ha もうたくさん
もう終わったのよ
何もかも 終わったのよ
すべてはもう 終わったのよ

母(声のみ) 降り積もれ 静かに

すっかり雪の積もった窓の外に、一人の年老いた女。それは、既に死んだ母。雪に立たずむ老女。

やがて、女の背景には都会の風景ではなく、雪景色の故郷の山あい。

女 降り積もれ 深く

女は窓の外の変化に気づき電話を一方向的に切る。

女 あなたは誰？
あなたは誰なの
その雪の中に佇む
あなたは誰？

母 私はあなた……

女 あなたは？

母 私はあなたの…

女 母さん？！

母 そう
おまえを産み、育み

女 母さん？！

母 この手で、この胸に抱きしめ、おまえに頬よせた母

女 母さん！

母 幸せかい？

女 ……ええ……

母 私は不幸せ……

女 母さん
もう3年だね、覚えているかい、3年前
あの年も雪が深かった
私はあなた
今あなたが見ている 私はあなた
ああ だから目を閉じないで

オペラ 窓 (ウインドウズ)

臆病にならないで
尊大にならないで
なぜなら、そこに見えているのいるのは
等身大のあなた、あなたそのもの

3年前の師走、
正月ももうすぐだというのに
おまえは来ない
電話をしても繰り返されるのは無機質な機械の声
「今は不在、今は留守」

おまえはどこに行ったの？
私の腕を離れ、どこに居るの？

機械に向かって話す私の言葉は
「困っていないかい？
ちゃんと食事はとってるかい？
必要な物はないの？
たまには電話でもおくれ」

それでも答えは返ってこない
繰り返されるのは機械の声

でも、困っていたのはおまえでなくて私
雪に埋もれてしまいそうな小さな私
雪に押しつぶされてしまいそうなおまえの母

私はあなた
今あなたが見ている 私はあなた

女 母さん、母さん
母さんのことを思い出さない日なんて無いわ
ずーっとずーっと心の奥で
いつもしんと冷たいところがあったの
その冷たさは私の笑顔の陰で何もかも凍り付かせる
その冷たさは都会の孤独を尚一層深くする

母 私はあなた
女 あの日のことは忘れない
母 今あなたが見ている 私はあなた
女 3年前のクリスマス・イヴ
母さんの声も聞いた
私はあの時家にいたの

オペラ 窓 (ウインドウズ)

母 ならばなぜ、なぜ私の孤独に応えてはくれなかったの
女 でも電話に出なかった
母 私はお前を必要としていたのに
女 母さんの声が聞きたくなかったわけではないの
故郷の話を聞きたくなかったわけではないの
でも、あの時、母さんの声を聞き、故郷の言葉を話したら、
私は崩れてしまいそうだった
都会で一人で生きる勇気を失ってしまいそうだったの
だから電話機かまれる母さんの声から逃れようとして
耳を覆い、ベットの中で丸くなって……

その二日後、留守電には田舎の叔父さんからの伝言……
「母さんが死んだ」って

女 私はあなた
今あなたが見ている 私はあなた
母 そう、だから目を閉じないで
女 御免なさい、母さん
母 臆病にならないで
女 許してね、母さん
母 尊大にならないで
女 Ah-
母 なぜなら、そこに見えているのいるのは
等身大のあなた、あなたそのもの
女 母さんの孤独の冷たさが
私の中にもあるの
母 心の中の
おなじ温度の冷たさが
女・母 冷たい 冷たい雪に押しつぶされる
母 母さんの
女 私の
女・母 孤独な死を見殺しにした
女 御免なさい、母さん、許してね、母さん……

母 降り積もれ 静かに
女 静かに
母 降り積もれ 深く
女 深く
私はあなた……
母 おまえは？
女 私はあなたの
母 こども？
女 そう あなたをが産み、育み
その手で、その胸に抱きしめ、優しく頬よせた娘

オペラ 窓 (ウインドウズ)

母 娘
女 私はあなた
母 おまえの心が分からないのではない
女 私はあなた
母 おまえの孤独が判らぬのではない
でも、人は孤独の中で生きていけぬ
誰かを必要とする時がある
誰かのぬくもりを
その孤独な一夜を過ごす勇気と力の無い時があるの
女・母 私はあなた
女 今あなたが見ている 私はあなた
あ—— (女の悲鳴が遠く聞こえる)

女の悲鳴のような叫びを雪の静寂が押し包む。

窓の外と中の区別がなくなり、一面の雪。

母と娘の姿も消え去る。

間奏曲Ⅱ 〈窓の歌〉

合唱 窓を開けよう
窓の向こうに別の誰か
私の知らない誰かが窓の向こうからやってきて
私の心を解かし
私の知らない私を映してくれる

三つ目の窓

一人の男の部屋。壁には大きな鏡。彼が帰宅する。日常的な動き。

男 「ただいま、今帰ったよ！」
と、いっても誰も答えることの無い、さびしい一人暮らし
でも、誰にも気兼ねする必要の無い、気楽な一人暮らし
居るのは鏡の中の僕だけ
僕の分身、ドッペルゲンガー
鏡の女 僕の分身、ドッペルゲンガー
男 僕が手を上げれば
鏡の女 僕が手を上げれば
男・鏡の女 鏡の中の僕が手を上げる
男 あれは紛れも無く僕の姿
鏡の女 僕の姿
男 あれはさびしい一人暮らしの僕の姿
鏡の女 さびしい僕の姿

オペラ 窓 (ウインドウズ)

男 ちょっぴり
鏡の女 ちょっぴり
男 短足で
鏡の女 短足で
男 決してイケメンはない僕の姿
鏡の女 イケメンではないすがた僕の姿
男 でも、このステップで僕の心がはずむのさ

男は陽気になって鏡の前で歌い踊る。鏡の女も歌い踊る。

男 ちょっぴり
鏡の女 ちょっぴり
男 短足で
鏡の女 短足で
男 イケメンはないけれど
鏡の女 つけメン、タンタンメン

熱くなって上着を脱ぎ、シャツをめくると、鏡の向こうは女の姿に
男・鏡の女 ドッペルゲンガー
ドッペルゲンガー！

鏡の向こうが女の姿であることに気づき 踊りを止めて、鏡の中を注視する
男 鏡に映る僕が女に!?
そんな馬鹿な！
鏡の女 馬鹿なことじゃないわ！
男 だって、僕が手を上げれば
鏡の女 そうよ、私が手を上げれば
男・鏡の女 鏡の中の僕が(私が)手を上げる
あれは紛れも無く僕(私)の姿
あれはさびしい一人暮らしの僕(私)の姿

やがて男は鏡の女に恋していく
男はゆっくりと、髪、眼、頬、唇、首、胸の順に、手を当て、鏡の中の住人が
女性であることを確かめていく
男 おまえを愛してしまいそうだ

だんだん鏡の中の女がイニシアチヴをとっていく。
いつのまにか鏡の女に答えている男。

鏡の女 あなたを愛しているわ
愛していいのよ、私を
男 愛していいのか、おまえを
鏡の女 長いこと探していたの、私を映してくれる人を
男 長いこと待ち望んでいたんだ、僕の孤独を消してくれる人を
鏡の女 Ah- 愛して…
男 Ah- 愛していいのか？
鏡の女 いいわ！ 愛して…
男 いいか？
鏡の女 いいわ、強く
男 もっと激しく、いいか？

オペラ 窓 (ウインドウズ)

鏡の女 いいわ、何もかも脱ぎ捨て
男 何もかも投げだし
鏡の女・男 絡み合って…
重ねる手と手
合わせる胸と胸
呼吸が一緒に高鳴り
熱く共に呼吸する

鏡の女 さあ来るのよ
男 さあおいで
男・鏡の女 鏡の中のドッペルゲンガー

激しく陶酔する二人の愛の二重唱

男 僕は僕でなくなり
鏡の女 私はあなたになる
私の体温が
男 僕の体温になる
鏡の女 血はあなたに流れ
男 心臓はおまえに向かって打ち続ける
鏡の女 さあ来るのよ
男 さあおいで
男・鏡の女 鏡の中のドッペルゲンガー

鏡を挟んでキスし抱擁しあう二人。まるで嵐、「トリスタン」のような音

男 さあおいで
鏡の女 さあ来るのよ
男・鏡の女 鏡の中のドッペルゲンガー
私たち(僕たち)は今一つになるの

陶酔の果てに発光する鏡。

大音響、鏡が砕け散る音

鎮まると鏡の前に女がいて、鏡の奥に男。女の影になってしまった男。

颯爽と外出していく女。

エピローグ 〈窓の歌〉

合唱 窓を開けよう
窓の向こうに風
風は窓の向こうからやってきて
わたしの頬を叩き
私の吐息を窓の外に運んでくれる

だから私は今日も窓を開ける
私の知らない美しさを輝かせ
例えそこに映る景色が私を醜く映しても
おねがい 窓を閉めないで
(幕)